

別記第2号様式（第3条関係）

視察概要書

1 視察日時 令和4年10月26日（水） 午後1時00分～午後2時30分

2 視察先 兵庫県高砂市議会
（住所：兵庫県高砂市荒井町
千鳥一丁目1番1号）



3 調査事項 フードドライブ事業について

4 視察先概要

- (1) 挨拶 高砂市議会 議長 今竹 大祐 氏
- (2) 説明者 高砂市役所 生活環境部 職員 2名
- (3) 視察先概要：高砂市

人口：88,395人（令和4年9月30日現在）

面積：34.38 km²

5 調査項目

- (1) 概要について
 - ・経緯、具体的な取組、成果等について
- (2) 現在の状況について
 - ・取組前後の変化
 - ・行政、事業者のメリットについて
- (3) 今後の課題等について

- 6 視察の目的：ゼロカーボンシティの実現を目指している本市において、フードドライブ事業を行うことで食品廃棄物が削減できるとともに、食糧支援を通じた貧困問題の解消につながる非常に有用なものだと考えるため。
- 7 施策等の概要：フードドライブとは、各家庭で余った食品を持ち寄ってもらい、それを必要とする人々にフードバンクなどを通じて寄付する活動のこと。フードバンクとは、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈を受け、必要としている福祉施設や困窮世帯に無償で提供する活動及びその活動を行う団体（NPO 法人など）のこと。
- 8 主な質疑応答

Q 1 事業を始めたきっかけについて

A 1 きっかけはごみの減量だが、その後、福祉の関係各所（市内の福祉施設や子ども食堂）へ普及した。

Q 2 寄付食品を多く集めることにとらわれ、食品を購入する企業もあると聞くが、本来の目的とのバランスや矛盾について

A 2 ごみの減量を目的にやっており、余計なものを購入しない、食品ロスを発生させないことを周知していくことが大切であると考えている。

Q 3 賞味期限切れや、賞味期限が1か月を切っているものが持ち込まれた場合の対応について

A 3 気付いた場合には声かけをして持って帰ってもらえる場合もあるが基本的には受け付ける。5点から10点くらいは期限を切れている食品があるので、市で処分する。



9 考察

ア 現状や事業効果

令和2年度に食品ロスの削減（ごみの減量化）の新たな方策のひとつとして、フードドライブの実施を検討、市の関係部署と協議・調整を行うとともに、フードドライブの受付場所を人出の多い商業施設で実施する方針とする。

高砂市のごみの減量施策等協力を得ている「コープ高砂」に、フードドライブ事業の協力を依頼したところ、「コープこうべ本社」から「コープ」、「高砂市」及び「高砂市社会福祉協議会」との共催事業として実施してはどうか、との提案を受ける。

「高砂市社会福祉協議会」の賛同を経て、3者による共催事業として連携・協力して取り組みを行う。また、寄付を受けた食品の管理・保管・提供先への橋渡し等の業務を市で行うことが困難であるため、NPO法人フードバンクはりま（姫路市）にも協力を依頼する。令和3年度、市内の「ボランティアグループ れいんぼー」から、グループ単独での活動としてフードドライブを行うにあたって、市に後援を依頼したい旨の相談を受けたことから、共催事業として一緒に実施してはどうかと市から提案し、「ボランティアグループ れいんぼー」も共催団体として協力・連携してもらい、「NPO法人フードバンクはりま」も共催団体に加えた5者で取り組みを実施。

令和4年度、「コープこうべ」の紹介で、「但陽信用金庫（市内に4店舗）」からフードドライブの取組みに協力したい（寄附食品の受付場所）との申し出があり、次回から「但陽信用金庫」も共催団体として加え実施する予定。

また、市内で実施されるフードドライブ活動の推進を目的に、フードドライブをやってみようという市内のボランティア団体や自治会、企業にフードドライブに必要な用品の貸し出しを行う取り組みを開始している。

●フードドライブ事業実施までの流れ

- (1) 共催団体、市内関係部署との調整
- (2) 開催準備・市民周知（市広報誌、市HP、社協だより、ポスター、チラシなど）
- (3) フードドライブの実施
- (4) 提供会の開催
- (5) 地域福祉課、子育て支援課を通じて、市内の福祉施設等に優先提供（無料）
- (6) 提供会で残った食品はフードバンクはりまに提供
- (7) お礼、回収実績の報告（市広報、市HP、社協だよりなど）

●回収実績

実施日	実施場所（受付場所）	提供者数	食品重量 （寄附量）
令和3年1月13日～15日	コープ高砂	116人	400.5 kg
令和3年9月15日～17日	高砂市役所ロビー ユーアイ帆っとセンター（社協） コープ高砂	161人	990.92 kg
令和4年1月12日～14日	高砂市中央公民館兼伊保公民館 ユーアイ帆っとセンター（社協） コープ高砂	138人	665.63 kg
令和4年9月7日～9日	高砂市中央公民館兼伊保公民館 ユーアイ帆っとセンター（社協） コープ高砂	124人	532.16 kg

●行政・事業者のメリットについて

行政

- ・食品ロス問題やごみ問題に対する市民の意識向上につながる。
- ・食品廃棄物の抑制により、環境負荷の低減やごみ処理費用の削減につながる。
- ・食料を必要としている福祉団体や生活困窮者への支援につながる。

事業者

- ・社会貢献活動のPRにつながり、企業のイメージアップにつながる。
- ・食品製造業者などは、廃棄コストの削減につながる。

●今後の課題について

フードドライブ事業は、福祉的な色合いが強く、寄附食品を多く集めることが主目的となっている側面がある。

市広報誌などで消費者の方々にできるだけ余計なものを購入せず、食品ロスの発生を抑制（ごみの減量化）してもらえるように周知・啓発に努めていきたい。

また、受付場所や実施回数を増やしてほしいとの要望もあるが、人員不足から回収場所の常設化や受付場所を増やすことも困難である。

最少人数で継続して実施できる方法を検討している。

イ 本市に導入できることや検討

中間市の社会福祉協議会がフードドライブ事業を実施しており、その取り組みを支援する方法として、情報発信や普及啓発が挙げられる。

家庭で実施できる食品ロス削減の取り組みについてハンドブック等を作成して各世帯に配布することや、広報誌など従来の広報媒体に加えて SNS 等を活用して、食品ロスに関する正確な情報発信を行うことなどがある。

また、普及啓発については、福祉施設や教育機関等と連携して、高齢者から学生など幅広い世代へ啓発活動を行うことが重要であると考えます。フードドライブ事業の認知度を向上させるために、行政内部でも連携して事業を推進することが必要である。

ウ 本市に導入した場合の課題

フードドライブ事業については食品ロスの削減を目的として行うため、食品を集めることが目的とならないよう、市民や事業者に対してごみ減量に関する周知や啓発を行い事業の趣旨を理解してもらう必要があると考えます。また、フードドライブ事業は食品ロスの削減に留まらず、生活困窮者や子ども食堂への支援など福祉的な役割も大きく担っているため、現在事業を行っている社会福祉協議会と行政が連携を図り、よりよい事業に展開できるよう、ニーズや状況等を把握しながら行政としての支援の在り方を検討する必要があります。



行政視察の様子